

中級学習者にこそ「新聞」を

森元 桂子

科目名：「新聞」を読んで学ぶ日本語

レベル：初級1・2 / 中級 **3・4・5** / 上級6・7・8

履修者数：35名

1. はじめに

本科目は、2015年度に新設科目として採用されたものである。開講の動機となったのは、筆者自身が学生時代に米国への短期留学に行った際の苦い思いであった。「せっかくアメリカに来たのだから、現地のニュースぐらい新聞で読んでみたい。」と思ったものの、当時の語学力では全く歯が立たず、独学で読める力をつける他に術もなく、ただただ愕然としたことを今でも鮮明に覚えている。教科書の文章は往々にして記事の内容や情報が少し前のものになりやすく、読む理由も学生にとっては、教科書に載っているからに過ぎない場合も多いと考えられる。彼らが日本まで来て、今、心から読みたいものは何か、読めるようになりたいものは何か、日本語で書かれたものを通して知る意味のあることは何かと考えた時、「もし中級学習者でも一般紙を読める足がかりとなる授業があったら……。」とあの頃感じた記憶が蘇り、自力である程度日本語の新聞を読めてしまう上級者よりも、むしろ中級学習者にこそ「新聞」を扱い、読解の手助けをする授業が必要だと考え、中級に合った教材の選択や授業の在り方を模索した上で、この授業活動を考案した。

2. 授業の目的

新聞の文章や表現の特徴を理解し、新聞の読み方に慣れ、日本語のことばや表現を増やし、自分で一般紙の読解に取り組める力をつける。また、記事に書かれた内容を理解し、背景にある社会問題をテーマとしたディスカッションを通し、自身の関心や考えを深める。さらに、社説の比較により多角的な視点について学び、コラム執筆や発表を通して、興味のある問題に対する自分の考えをわかりやすく他者に発信できるようにする。

3. 授業の概要

3-1. 教材

一般向けの新聞と同じく昨日今日起こった出来事を記事としながら、漢字はルビ付きで表現が平易な小学生向けの新聞（朝日・読売・毎日）を主教材としている。記事自体だけでなく、新聞に掲載されている用語の解説も併せて使用する。また、記事の理解を深めるために、字幕入りのEテレ「手話ニュース」の動画や「NHK News web easy」の記事を補足として使い、内容を把握できた上で、中高生向けの新聞（朝日・読売）や一般紙（朝

日・読売等)の読解に挑戦する形をとっている。

3-2. 授業の内容と進め方

- ①日本の新聞の基礎知識を学ぶ。
- ②学生アンケートで希望の多い3つの分野について、教師が学生の希望を参考に適当なものを選び、1)～7)の手順で活動を行う。1)小学生向けの新聞記事について、漢字とことばのワークシートを予習課題として配布。2)授業で漢字やことばの意味、文型、その他の表現を確認し、正確な読み取りを行う。3)ワークシートに従い、内容を要約し理解する。4)漢字・ことばの小テスト。5)関連のテレビ・ウェブニュースを視聴する。6)同内容の中高校生新聞の記事を読み、表現がどう置き換わっているかを理解する。同内容の一般紙に挑戦する。7)記事の背景にある社会問題について、テーマを決めてディスカッションする。
- ③社説の比較・四コマ漫画・コラムについて学び、自身の関心事についてコラムを書き、お互いのものを読んで評価する。新聞社見学をする。
- ④学生一人ひとりが小学生・中高生新聞の記事の中から、興味のある記事を選び、その概要と選んだ理由、記事に対する自分の意見を発表する。

表1 クラス全体で読んだ記事(2015年・2016年春学期)

	分野	記事		分野	記事
2015年 春学期	社会	ドイツの旅客機墜落	2016年 春学期	社会	熊本地震
	経済	AIIBへの参加		教育	日本の教育問題～校内暴力・不登校
	国際	「イスラム国」と混乱する中東情勢		国際	オバマ大統領広島訪問

4. 学生の反応と課題

毎週かなりの量の課題が出されるにも関わらず、学生は果敢に取り組み、語彙の意味等を調べ、事前に記事をよく読んで授業に臨んでいる。新聞に頻出する表現や記事内容の理解、背景にある社会問題に対する関心も非常に高く、時折上級クラスに匹敵する深い議論をしており担当者として驚いている。期末アンケートでは「日本語の新聞を自分で読める自信がついた。」「留学中に世の中で起きているニュースを知ることができてよかった。」「帰国後も日本語のウェブニュースを読んで、日本語を忘れずに学習継続したい。」という声が多かった。学生が必要な活動に出会う時、予想以上に高い意欲と能力を発揮するのだという手ごたえを感じている。一方で、このようなクラスでは常にリアルなニュースを扱うことが肝要なため、教材の繰り返し使用ができず担当者の負担が大きい。学生の熱意に応え今後もクラスを継続していくためにも、授業や準備の在り方を検討し工夫して努力を重ねていきたい。また、3レベルの学生には授業の難易度が高いと感じられるため、本科目のレベルを4-5に変更し、新たに初中級向けのクラスを設けたいと考えている。

(もりもと けいこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)